

## 結果③：「運動が好き」を構成するモデル（共分散構造分析）

---

### 【男女共通の重要ポイント】

- ・ **「体育が楽しい」という実感が「運動が好き」に最も強く影響し、**運動の重要性認識や内発的動機づけがこれを支える。
- ・ **保健授業の動機づけや体育授業の質**（目標・仲間・振り返り）も**間接的に影響**する。

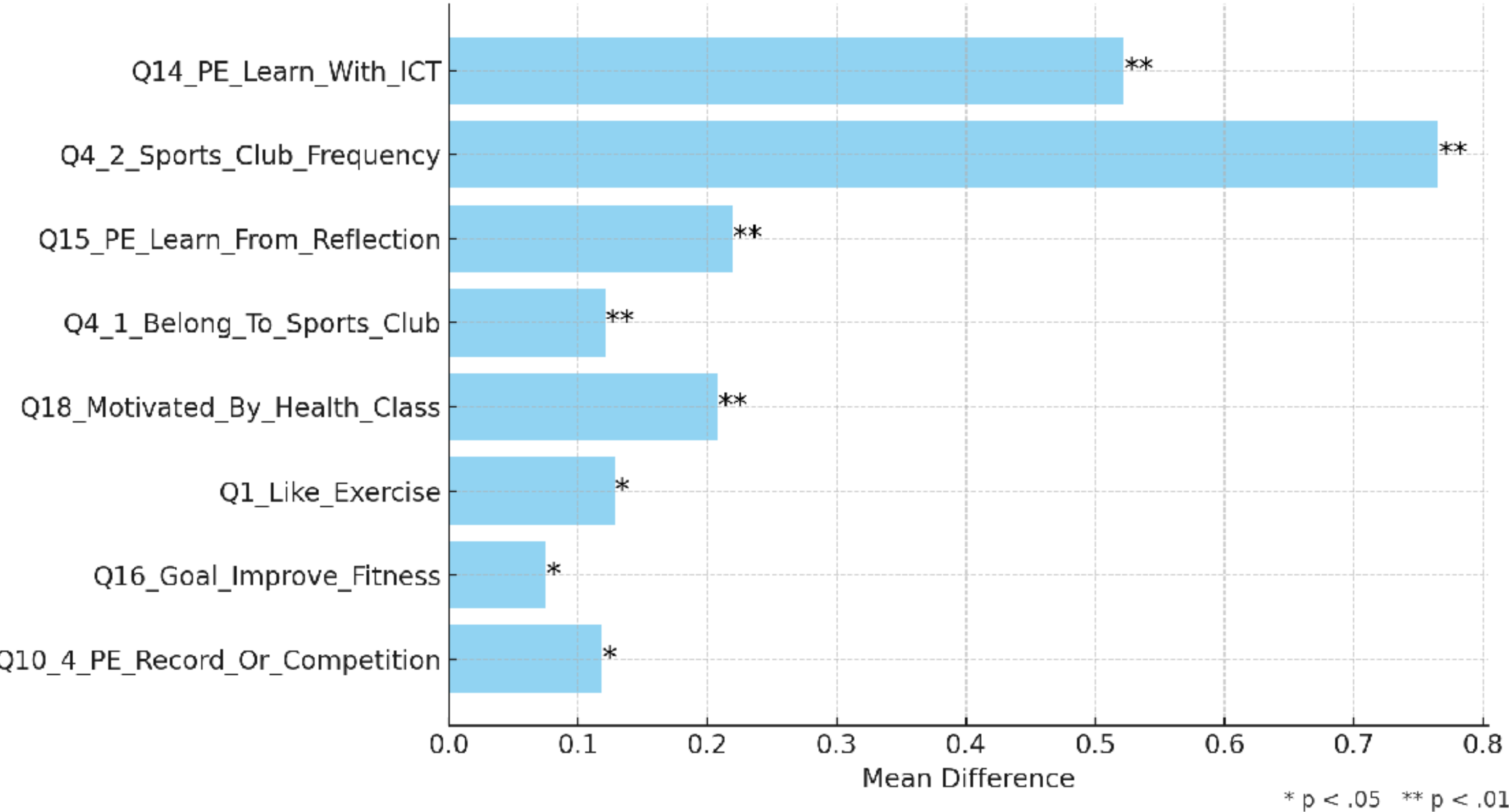
### 【学校現場への示唆】

- ・ 体育授業で「楽しい」と感じさせる**経験**の提供が最重要である。
- ・ 保健授業を実感ある動機づけにつなげるとともに、**日常の運動意欲**を引き出す**教育的連携**が運動好意識の向上に効果的である。

# 結果④：体力合計点平均の上位10校と下位10校の比較

## 小学生男子

Male Students: Significant Differences in Question Scores  
(Ordered by t-value)



### 【男子の特徴】

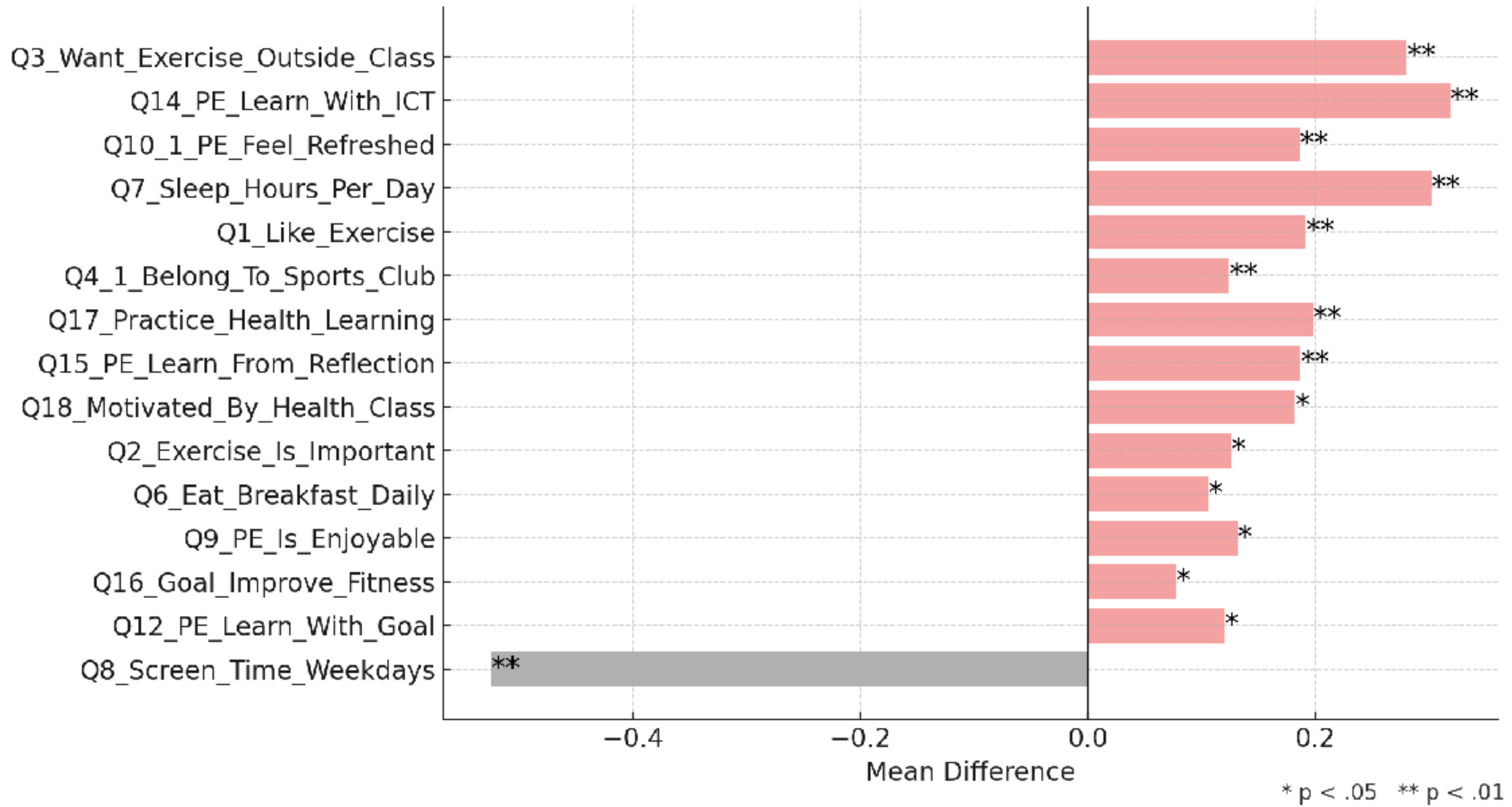
- ・ 上位校はICT活用・スポーツクラブの活動頻度・保健学習への振り返りが高く、課外での運動習慣と学習への内省的取り組みが特徴的である。
- ・ 運動への好意的態度や保健授業へのモチベーション、記録・競争への積極性も上位校で高い傾向がある。

\* p < .05 \*\* p < .01

# 結果④：体力合計点平均の上位10校と下位10校の比較

## 小学生女子

Female Students: Significant Differences in Question Scores  
(Ordered by t-value)



### 【女子の特徴】

- 上位校はICT活用・スポーツクラブ活動頻度・運動好意識・内的動機づけが高く、睡眠時間も長い傾向がある。
- 下位校は平日のスクリーンタイムが長く、身体活動の機会損失が示唆される。
- ICT活用と日常的な運動習慣、生活習慣の健全さが女子の体力形成に関係している。

# 結果⑤：クラスター分析による特徴の把握と支援方針の提案

## 小学生男子

クラスター	人数	体力点	傾向	特徴	支援方針
Cluster 1	2022名	57.2点	運動・授業ともに積極タイプ	・体育の授業が楽しい・達成感があると感じている ・運動習慣も良好、生活リズムも整っている	活躍の場を広げてモチベーションを維持・発展
Cluster 2	1436名	54.2点	意識高め・行動も良好タイプ	・運動意欲も高く、授業の目的理解や振り返りにも前向き ・体力はあるが、Cluster 0よりはやや控えめ	意欲を具体的な成果に結びつける機会を拡充
Cluster 3	626名	47.7点	やや受け身タイプ	・運動や授業に関心はあるが、自発的行動にやや結びつかない ・体力水準も低め	意識を行動に転換させる環境づくり
Cluster 4	161名	46.5点	運動・授業の関心低いタイプ	・運動が好きでない、授業も楽しくない、生活習慣も乱れがち ・最も体力合計点が低い	小さな成功体験の積み重ねと個別支援

### 【男子の特徴】

- ・積極タイプ（Cluster1）が最多（約45%）かつ体力が最も高く、男子の主要層を形成している。
- ・低関心タイプ（Cluster4）は少数だが体力が極端に低く、意欲・生活習慣・授業満足度すべてにわたる包括的支援が必要である。
- ・やや受け身タイプ（Cluster3）は意識はあるため、運動機会の提供とやる気のきっかけとなる支援が有効と考えられる。

# 結果⑤：クラスター分析による特徴の把握と支援方針の提案

## 小学生女子

クラスター	人数	体力点	傾向	特徴	支援方針
Cluster 1	1106名	57.7点	自立的・高関与タイプ	<ul style="list-style-type: none"><li>・運動が好き、授業も楽しいと感じている</li><li>・ICT・振り返りも肯定的</li><li>・健康生活への意識も高い</li></ul>	高度な課題・発展学習で意欲を維持・育成
Cluster 2	1057名	55.4点	行動型・感覚重視タイプ	<ul style="list-style-type: none"><li>・運動や授業そのものは楽しんでいる</li><li>・ICTや振り返りはやや弱い</li><li>・行動的だが、内省や目標設定の習慣が未熟</li></ul>	感覚的充足と行動的体験を活かす指導展開
Cluster 3	624名	51.2点	平均的だがやや消極タイプ	<ul style="list-style-type: none"><li>・一部には肯定的評価がある</li><li>・ICTや保健での内省的要素には低反応</li><li>・授業外の運動習慣はやや低め。</li></ul>	動機づけと授業内の成功体験による引き上げ
Cluster 4	172名	48.5点	無関心・低関与タイプ	<ul style="list-style-type: none"><li>・ほとんどすべての項目で評価が低く、体力も最も低い</li><li>・運動意欲・学習意欲がともに低く、自己肯定感も課題</li></ul>	自信と関心を育む段階的支援・情意的アプローチ

### 【女子の特徴】

- ・自立的・高関与タイプ（Cluster1）と行動的・感覚重視タイプ（Cluster2）は体力・意欲・授業満足度ともに高く、教育的に安定している。
- ・やや消極タイプ（Cluster3）はボリュームが大き目で、この層への働きかけが全体の体力向上の鍵となる。
- ・無関心・低関与タイプ（Cluster4）は最少人数だが、意識・習慣・授業評価すべてが低く、最も手厚い支援が必要である。

# 結果⑥：運動が苦手な生徒の特徴と関連要因に関する分析

## 小学生男子

項目	$\beta$	オッズ比
体育授業の楽しさ	0.777	2.176
Q17.保健を学習して、もっと運動しようと思ったか	0.741	2.099
Q2-1.運動やスポーツをすることへの興味や関心	0.563	1.756
Q5-3-7.日曜日の運動時間（それ以外の運動やスポーツ）	0.533	1.704
Q2-4.運動やスポーツを知ることへの興味や関心	0.452	1.571
Q5-4-6.土曜日の運動時間（活動時間の合計）	0.372	1.451
部活動の運動時間	0.360	1.433
Q12.目標を意識した学習で「できたり、わかったり」すること	0.343	1.409
Q5-3-5.金曜日の運動時間（それ以外の運動やスポーツ）	0.342	1.407
Q14.ICTを使った学習で「できたり、わかったり」すること	0.313	1.368

### 【男子の特徴】

- ・ **体育授業の楽しさ**が最も強い関連要因で、次いで**運動への内発的関心の低さ**が続く。
- ・ 運動機会の不足も関連するが、運動量より**授業経験・心理的要因の影響**が相対的に大きい。
- ・ 「**授業での否定的経験**」「**関心の低さ**」「**運動機会の不足**」が重なって苦手状態に関連している。

## 結果⑥：運動が苦手な生徒の特徴と関連要因に関する分析

### 小学生女子

項目	$\beta$	オッズ比
Q5-3-6.土曜日の運動時間（それ以外の運動やスポーツ）	0.492	1.636
体育授業への参加度	0.459	1.582
Q5-2-4.木曜日の運動時間（地域クラブ活動、スポーツクラブ）	0.444	1.558
部活動の運動時間	0.357	1.430
部活動の運動時間	0.351	1.420
Q5-3-1.月曜日の運動時間（それ以外の運動やスポーツ）	0.341	1.406
体育授業の楽しさ	0.294	1.342
Q5-3-3.水曜日の運動時間（それ以外の運動やスポーツ）	0.293	1.341
体育授業の楽しさ	0.273	1.314
Q8.平日の視聴時間	0.234	1.263

### 【女子の特徴】

- ・ 週末・平日の運動時間や部活動など、**運動機会の不足**が苦手状態と最も強く関連している。
- ・ 体育授業の楽しさも関連要因として確認されており、**授業経験の影響**も無視できない。
- ・ 男子より行動レベル（運動時間）の**影響が直接的に現れる**点が特徴的である。

# 札幌市「子どもの体力向上」に係る調査委託研究：令和3～7年度 研究成果の総括

令和3年度

授業データ分析

授業力の高い教師は単元目標を  
起点に授業を構築

身体活動量と会話量の相関は単  
元後半の協働場面で出現

運動の重要性の認識・課題意  
識・振り返りが走力と関連

令和4・5年度

PLC構築・オンライン研修

授業映像のオンライン共有が時  
空を超えた協働的学びを実現

コメント交流が授業者のモチベ  
ーション向上と授業改善に直結

熟練教師の授業で生徒の「主役  
度」のばらつきが小さい

令和6・7年度

体力・運動習慣データ分析

「体育が楽しい」という実感が  
「運動が好き」に最も強く影響

休日の運動時間とスポーツクラ  
ブの活動頻度が体力と関連

低関与層には段階的・個別的支  
援が必要

**体育授業の改善 → 児童生徒の体育学習への意識向上 → 体力向上**

データ活用・授業研究・専門職学習共同体（PLC）の三位一体のアプローチが体力向上への道筋を示す